

5.4 D地域(門田地区)

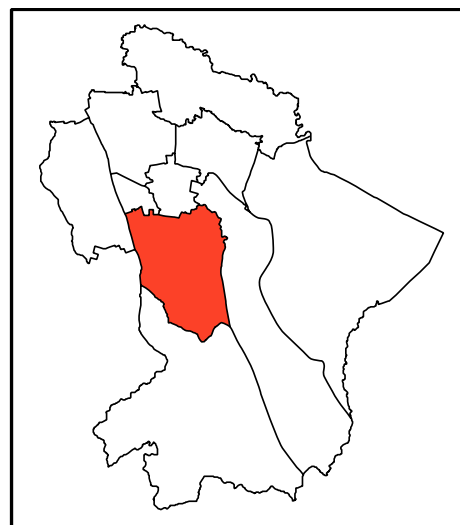
(1)地域の現状と課題

①良好な居住環境の形成

D地域は、中央の農地、その北側の住宅地、工業地を取り巻く豊かな自然の丘陵地で構成されています。地域内に会津総合運動公園があり、広域的なスポーツ拠点として、その利活用の充実が期待されています。

市街地の辺縁部に位置することから、宅地化が進んでおり、周辺の自然環境と調和のとれた良好な居住環境の形成が求められています。

また、阿賀川沿いに工業地が形成されており、住宅地の環境と調和を図りながら、地域の活力を牽引することが期待されています。



②農地の保全と農業の振興

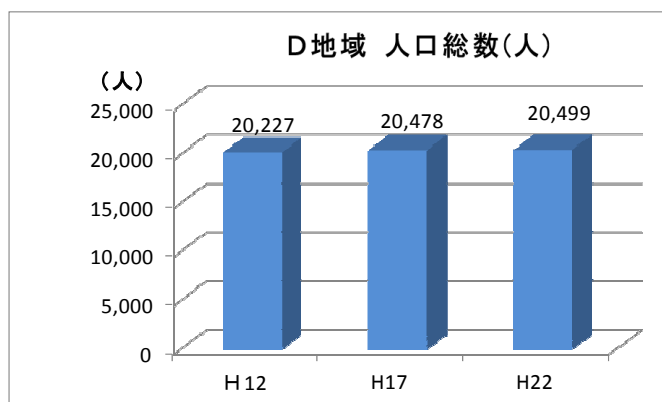
地域の中央に広がる農地は、市街地近郊の貴重な空間であり、農地の保全を図りながら、豊かな田園景観として活用していくことが求められています。

また、本市の特産物である身不知柿などを活かした農業の6次産業化により、農業の振興に取り組んでいくことが求められています。

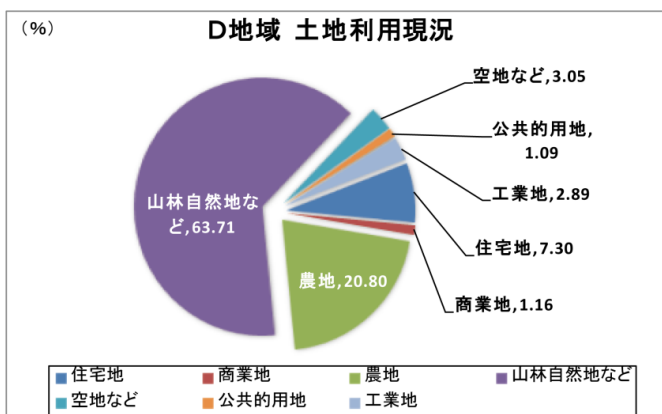
③丘陵地における自然環境の保全

柿畑などの果樹園を含む豊かな田園の風景は、本市の北部に広がる田畑の風景とは異なった景観を生み出しています。

また、溪流や山岳などの丘陵地の一部が風致地区に指定されるなど、豊かな自然に恵まれた地域となっています。こうした自然環境の保全と活用が求められています。



出典：国勢調査



出典：都市計画基礎調査

(2)地区別懇談会での意見

D地域は「門田地区」から構成され、地区別懇談会では以下のご意見・ご提案をいただきました。

地区名	主な意見
門田地区	○買い物場所や学校、病院などがあり、日常生活の利便性が高い。 ○田園風景、山並み、河川など、自然環境に恵まれている。 ○地域コミュニティが活発で、様々な団体が協力して、活動している。 ○自然災害に強い地区である。 ○道路整備が遅れており、幅員の狭い道路に大型車が進入し、通学路等の安全性確保が課題である。 ○公共交通の利便性が低い。 ○下水道や河川の早期整備。 ○除雪後の雪捨て場を見つけるのが難しい。 ○誰もが使えるよう運動公園の機能の充実が必要である。 ○歴史的な地域であり、歴史的な資源もあるが、十分に活用されていないため、地域の魅力にかける。 ○不法投棄が見られる場所がある。 ○地震による液状化が想定される地区がある。 ○地区内に工業誘致を積極的に進める。

(3)地域の将来像

地域の現状と課題、いただいたご意見から、D地域のまちづくりを考える上での「キーワード」として以下のものがあげられます。

D地域は、住宅地、工業地、農地、丘陵地により構成され、自然を身近に感じることができる地域であり、今後とも、原則として現状の土地利用を保全し、自然と共生して暮らすまちを目指すこととし、地域の将来像を設定します。

【キーワード】

○日常生活の利便性	○広域的なスポーツ拠点
○自然環境の保全と活用	○産業の振興

【地域の将来像】

美しい自然に包まれた、都市の多様性と
活力にあふれた、快適なまちをつくる

(4)まちづくりの目標

①美しい自然や田園風景と調和した快適な生活環境を形成する

地域の中央部に広がる農地は保全を基本として、地域内の住宅地、工業地などの都市的土地利用とバランスの取れた美しい土地利用を次世代に継承していきます。

②地域の活力を牽引する産業立地を促進する

各地域の立地特性を活かし、阿賀川沿いの工業地や幹線道路沿道の商業地において、地域の活力を牽引する産業の立地を促進します。

③豊かな自然を地域の財産として保全・活用する

貴重な自然空間は、保全を基本としつつ、自然の魅力を活かしながら、市民の交流、自然とのふれあい、レクリエーションなど様々な活用を図り、次世代に継承していきます。

(5)地域別方針

1)都市機能の方針

- 地域のコミュニティ拠点として、公民館等の機能の充実を図り、地域におけるコミュニティ活動や交流を促進します。
- 農業のブランド化や付加価値の高い地場産業の育成を支援し、地域の活力を高める取り組みを推進します。

2)土地利用の方針

- 地域の北側の住宅地は、低層建物を主体としたゆったり居住ゾーンとして、緑化の推進など、住み続けたいと思える良好な住環境を形成し、周辺の商業工業地などとの調和を図りながら快適なまちづくりを推進します。また、集落地においても、良好な生活環境の整備を推進します。
- 会津若松工業団地など、既存の工業系市街地においては、周辺環境との調和を図りながら、産業の立地や集積を促進し、地域経済を支える活力の向上、機能の充実を図ります。
- 沿道型商業施設が立地している幹線道路沿いは、自動車でのアクセス利便性が高い商業ゾーンとして、中心市街地との機能分担等を図りながら、幹線道路の特性に応じた土地利用を推進します。
- 農村集落地は、田園風景との調和を継続していくとともに、集落としての活力を将来的にも維持していくための土地利用を推進します。

3)都市施設の方針

- 公共下水道の整備や、浄化槽の設置を推進し、生活環境の向上と自然環境への負荷の軽減を図ります。
- 地域内交通の安全性と快適性を確保するため、歩行者と自動車が分離する人に優しい道路整備を推進します。
- 道路や公園などの都市施設の整備にあたっては、バリアフリーを基本として整備を推進します。
- 既存の消融雪施設を有効に活用するとともに、地域との連携のもと、除雪の充実を図りながら、冬期間における安全な生活環境を推進します。
- 地域住民をはじめ市民などの憩いの場や、広域的なスポーツ拠点となる会津総合運動公園の機能の充実や利活用の向上を図ります。

4)都市環境の方針

- 快適で安全な生活環境を保全するため、生活道路の整備や、住民をはじめ地域ぐるみによる防犯灯の設置などを進め、夜間でも安心して暮らせる地域づくりを推進します。
- 丘陵地や風致地区における豊かな自然環境と良好な自然景観の保全を図ります。
- 阿賀川など地域内を流れる河川は、自然の保全を図りながら、水害に対する安全性を高め、河川敷を活用した親水公園など多自然川づくりを推進します。
- 自然環境との調和を図りながら、優良な農地を保全していく体制づくりを推進します。

5)都市防災の方針

- 公共施設や学校、公園などを防災施設として活用するとともに、避難路の安全対策を図りながら、災害に強いまちづくりを推進します。
- 市街地においては、幹線道路の広幅員化、道路沿道における植栽帯の確保、市街地の道路沿道への不燃化構造の建築物の立地誘導などを推進し、火災に強いまちづくりを推進します。
- 住宅地における防災性の向上を図るため、木造住宅の耐震診断の促進を図るとともに、狭小道路や行止まり道路の解消を推進しながら、新耐震基準以前に建てられた建築物を中心に耐震化を促進していきます。
- 湯川及び古川等の河川改修を促進し、自然災害に対する安全性の向上を図ります。

■D地域(門田地区)方針図

